

第193回

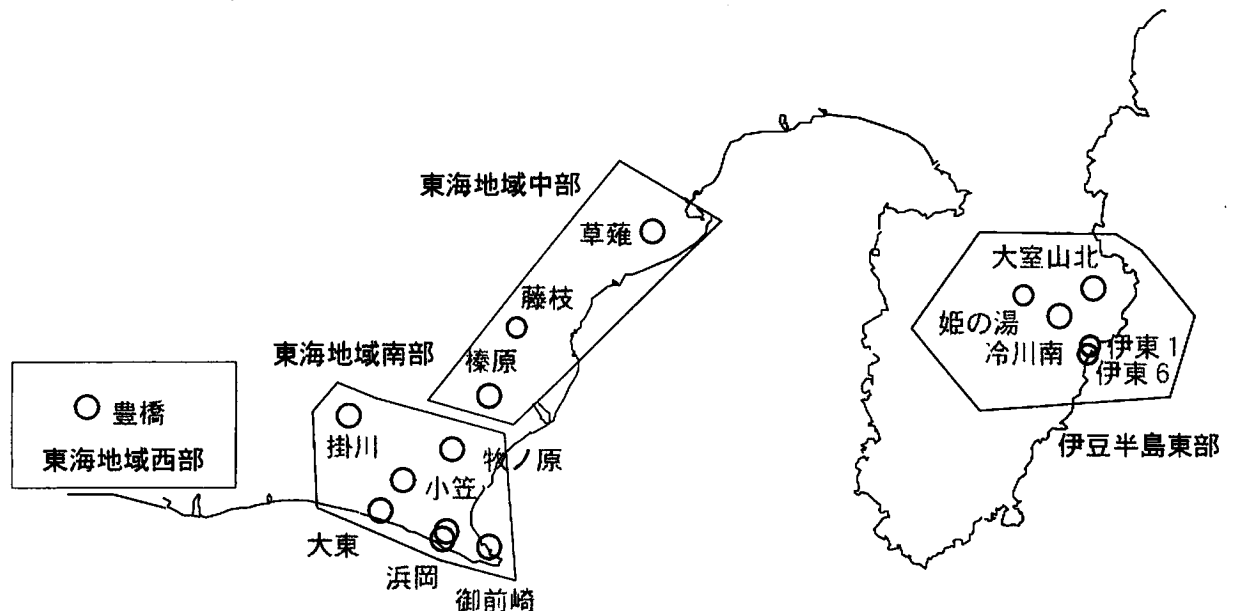
地震防災対策強化地域判定会

委員打合せ会

産業技術総合研究所

地質調査総合センター資料

産総研地質調査総合センター地下水観測井配置図
(伊豆・東海地域テレメータ連続観測)



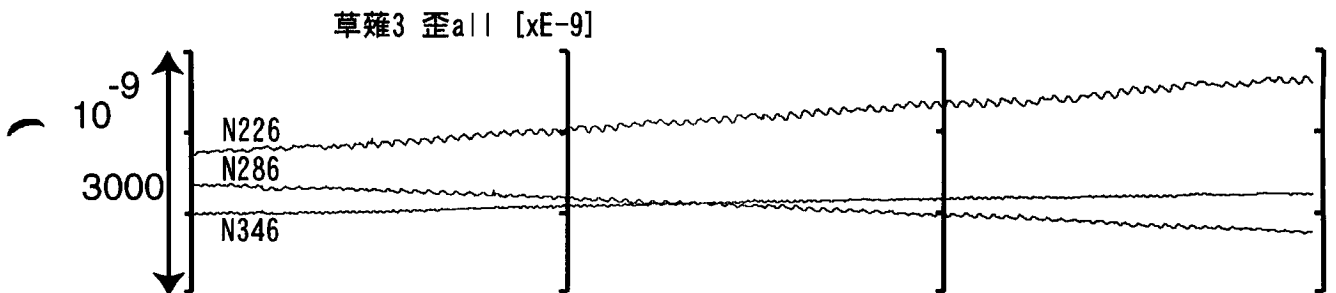
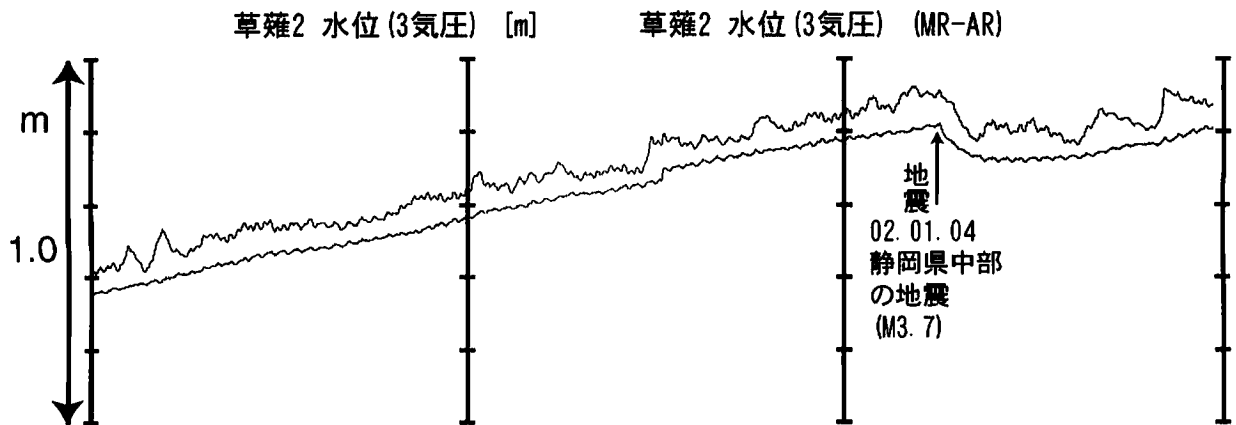
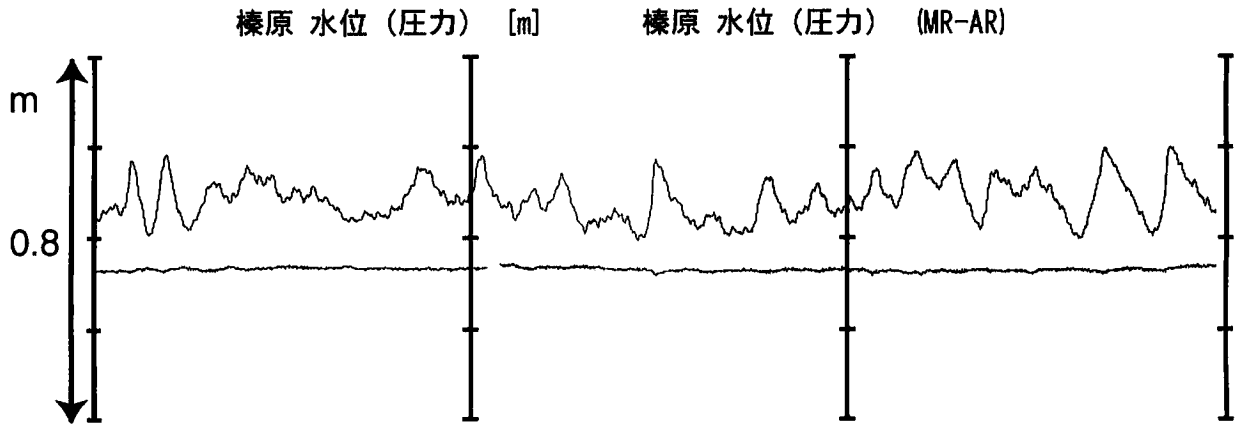
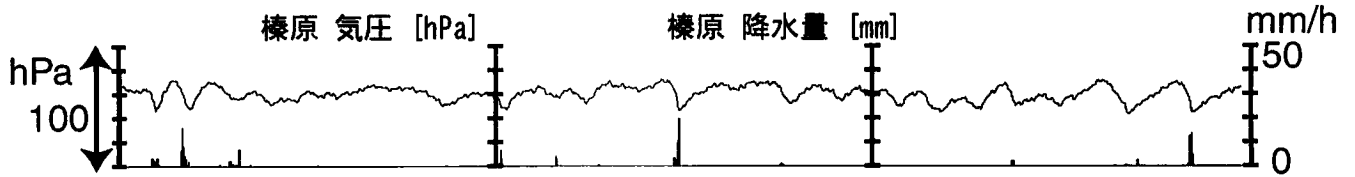
資料目次

1. 東海地域中部 (榛原, 草薙) 地下水 3成分歪 ; 中期
2. 東海地域中部 (草薙) 主歪解析 ; 中期
3. 東海地域中部 (榛原, 草薙) 地下水 3成分歪 ; 長期
4. 東海地域南部 (大東, 小笠, 浜岡, 御前崎) 地下水 ; 中期
5. 東海地域南部 (大東, 小笠, 浜岡, 御前崎) 地下水 ; 長期
6. 東海地域西部 (豊橋) 地下水 3成分歪・傾斜 ; 中期
7. 東海地域西部 (豊橋) 主歪解析 ; 中期
8. 東海地域西部 (豊橋) 地下水 3成分歪 傾斜 ; 長期
9. 伊豆半島東部 (大室山北, 冷川南, 伊東1, 伊東6) 地下水 ; 中期
10. 伊豆半島東部 (大室山北, 冷川南, 伊東1, 伊東6) 地下水 ; 長期

平成14年1月28日

東海地域中部（榛原・草薙）中期（時間値）

(2001/11/01 00:00 - 2002/01/26 00:00)



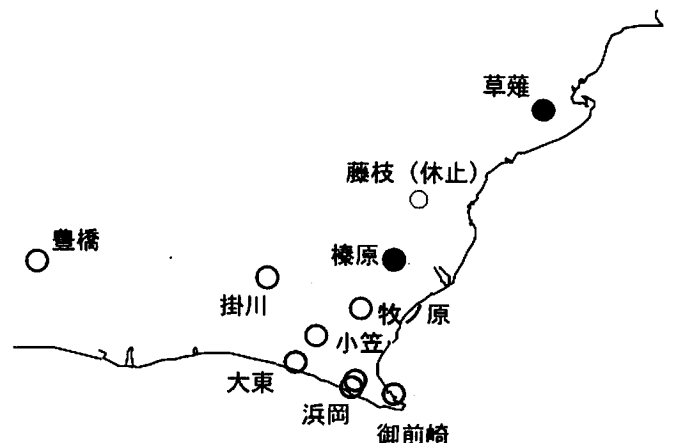
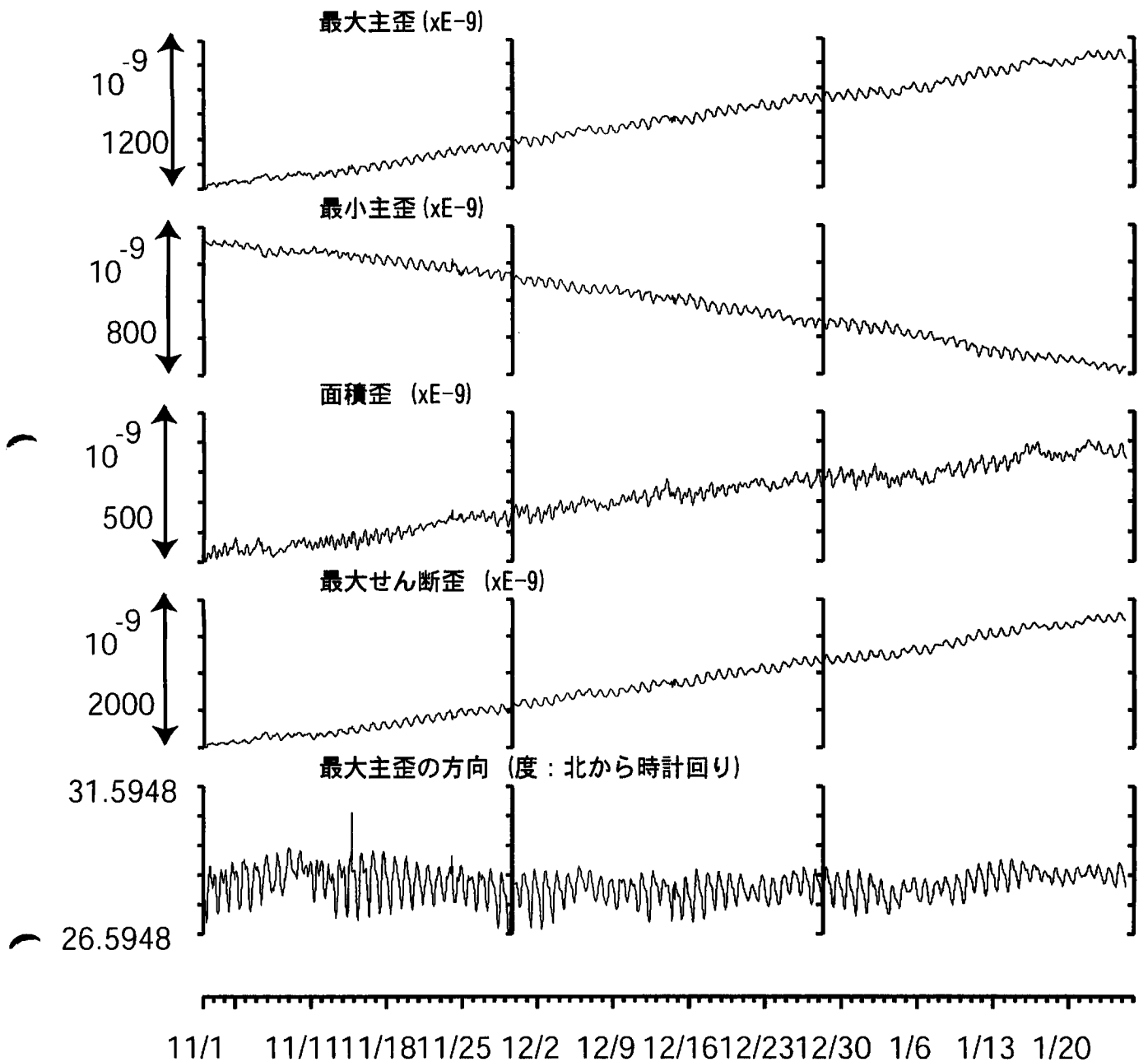
11/1 11/11 11/18 11/25 12/2 12/9 12/16 12/23 12/30 1/6 1/13 1/20

コメント：2002年1月4日14：00の静岡県中部の地震 (M3.7) で、草薙2の水位が10.4cm変化した。



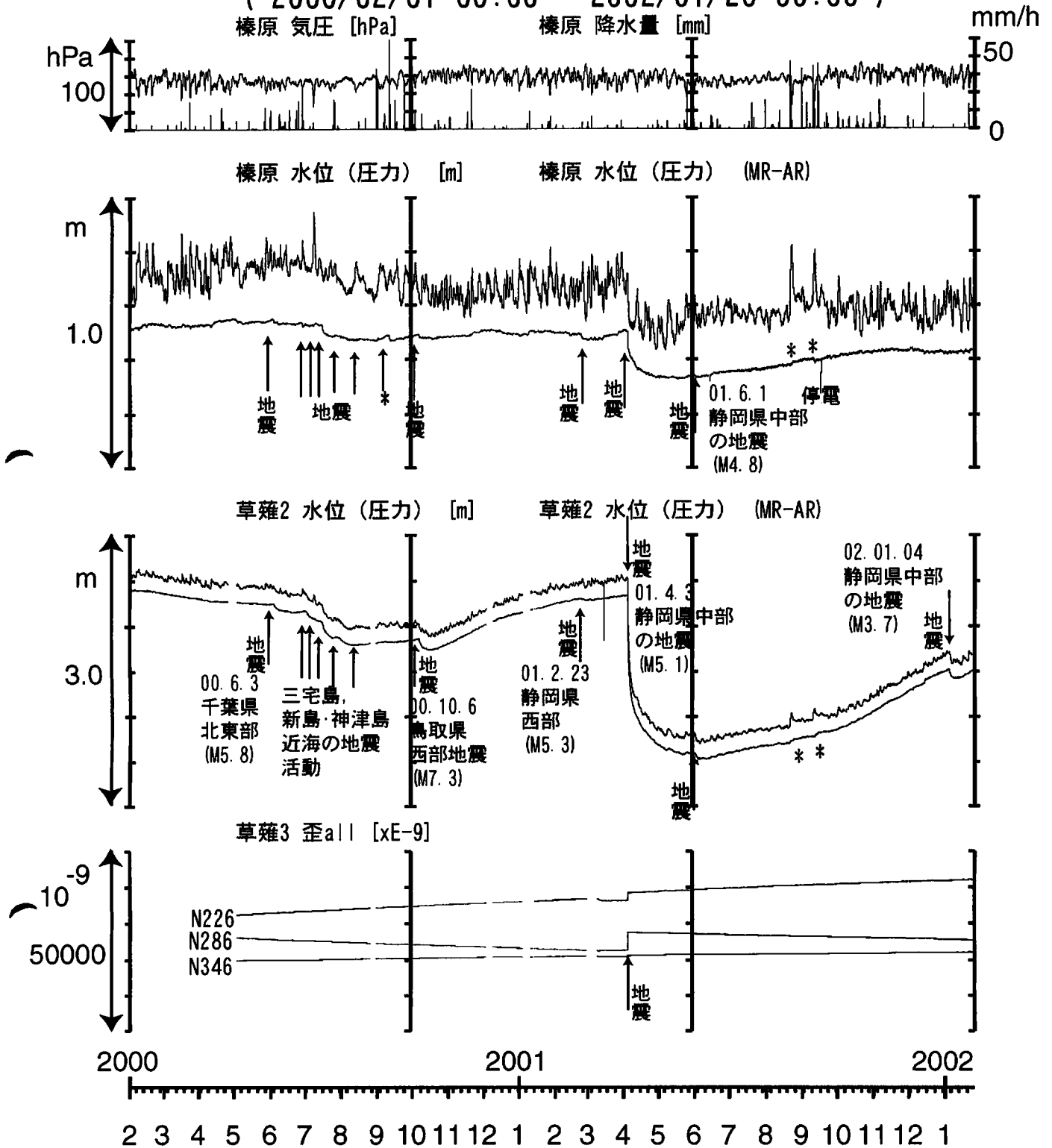
草薙3:主歪解析

(2001/11/01 00:00 - 2002/01/26 00:00)



東海地域中部 (榛原・草薙) 長期 (時間値)

(2000/02/01 00:00 - 2002/01/26 00:00)

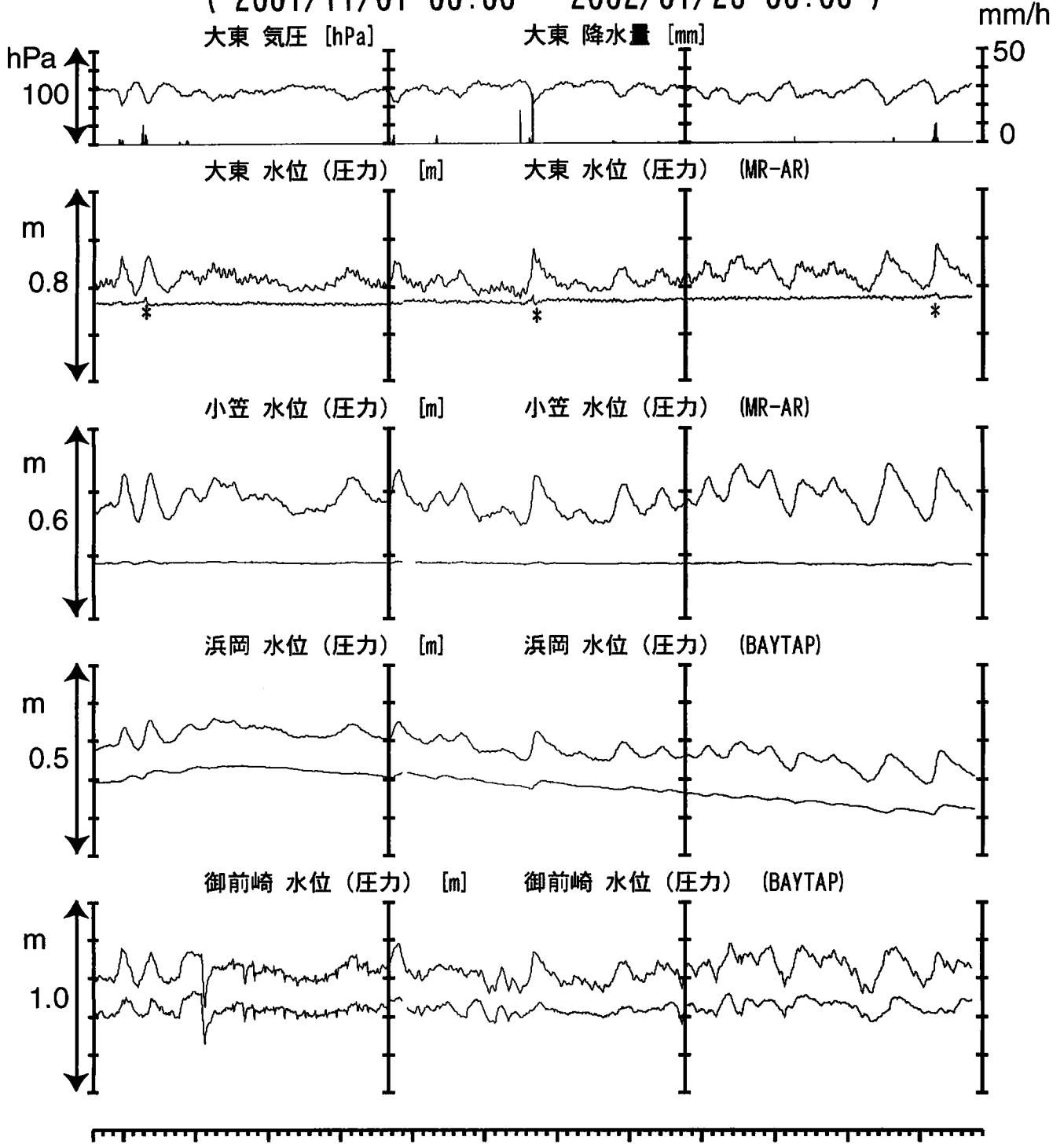


コメント：特記事項なし。
*雨量補正不十分。



東海地域南部 地下水観測結果 中期 (時間値)

(2001/11/01 00:00 - 2002/01/26 00:00)



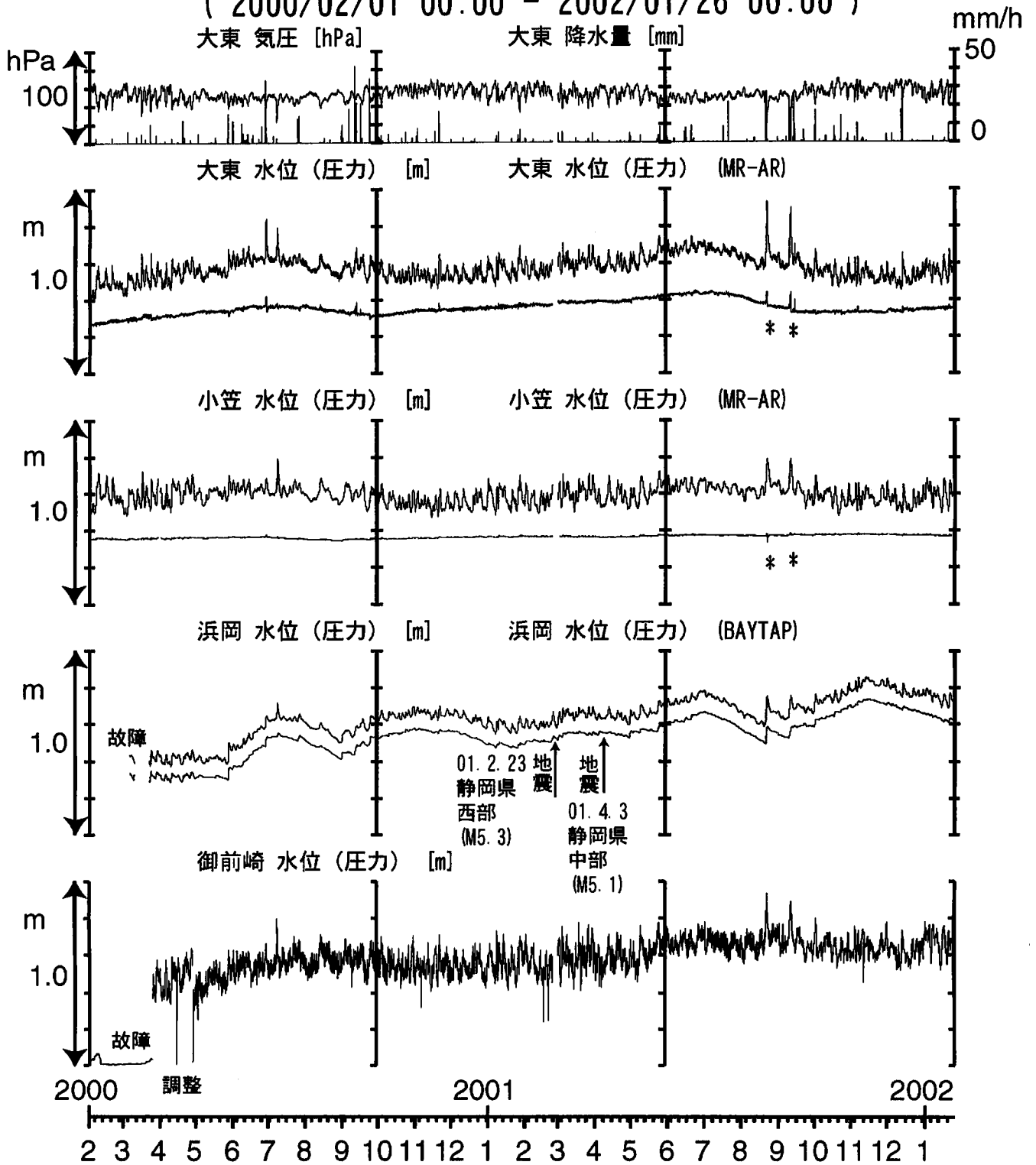
11/1 11/11 11/18 11/25 12/2 12/9 12/16 12/23 12/30 1/6 1/13 1/20

コメント : *雨量補正不十分.
12月1日の補正值のギャップは,
解析プログラムの見かけ上のものである.



東海地域南部 地下水観測結果 長期 (時間値)

(2000/02/01 00:00 - 2002/01/26 00:00)



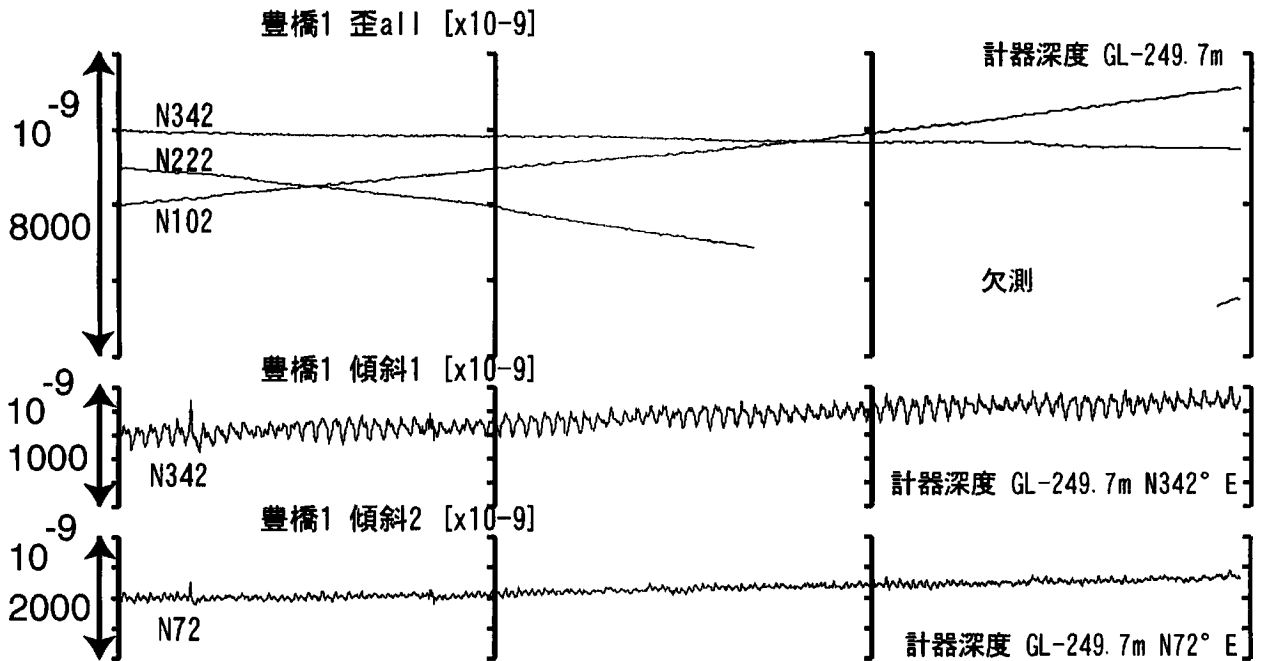
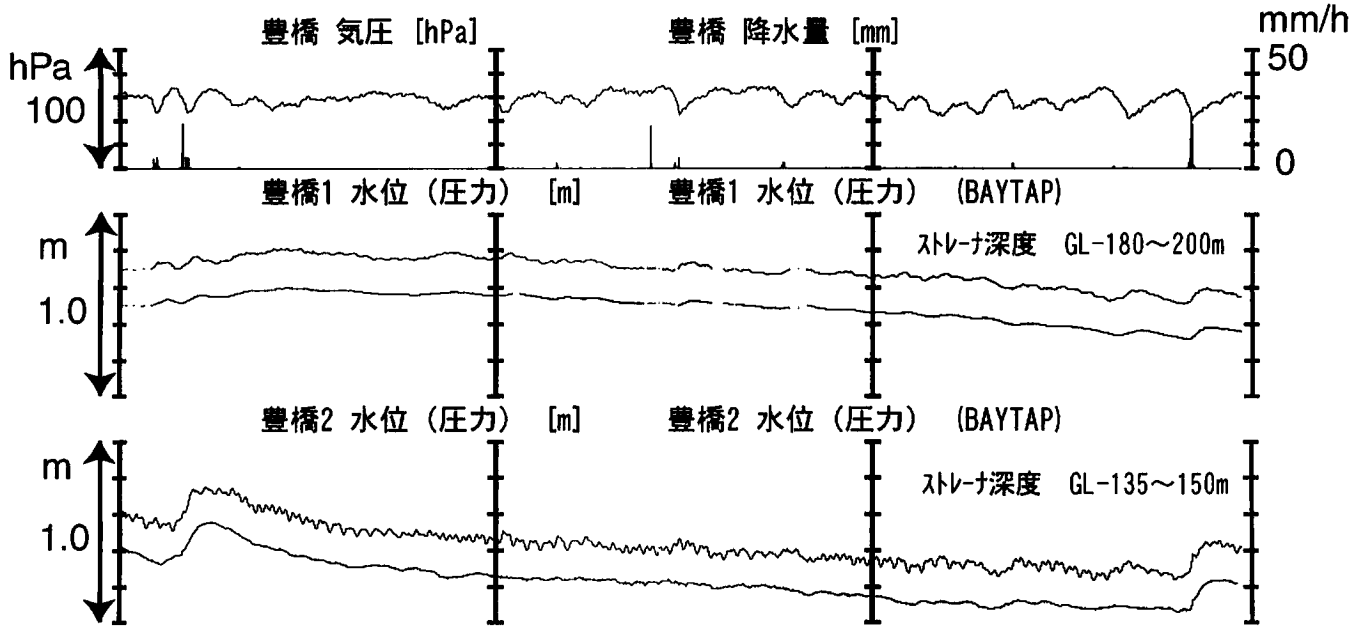
コメント :

浜岡は観測小屋の老朽化による雨漏りのため、電気系統が故障していたので、小屋の改修を行って2000年3月に復旧した。
 御前崎の水位は1999年12月に故障したが、2000年3月に修理した。
 *雨量補正不十分。



東海地域西部（豊橋）中期（時間値）

（2001/11/01 00:00 - 2002/01/26 00:00）



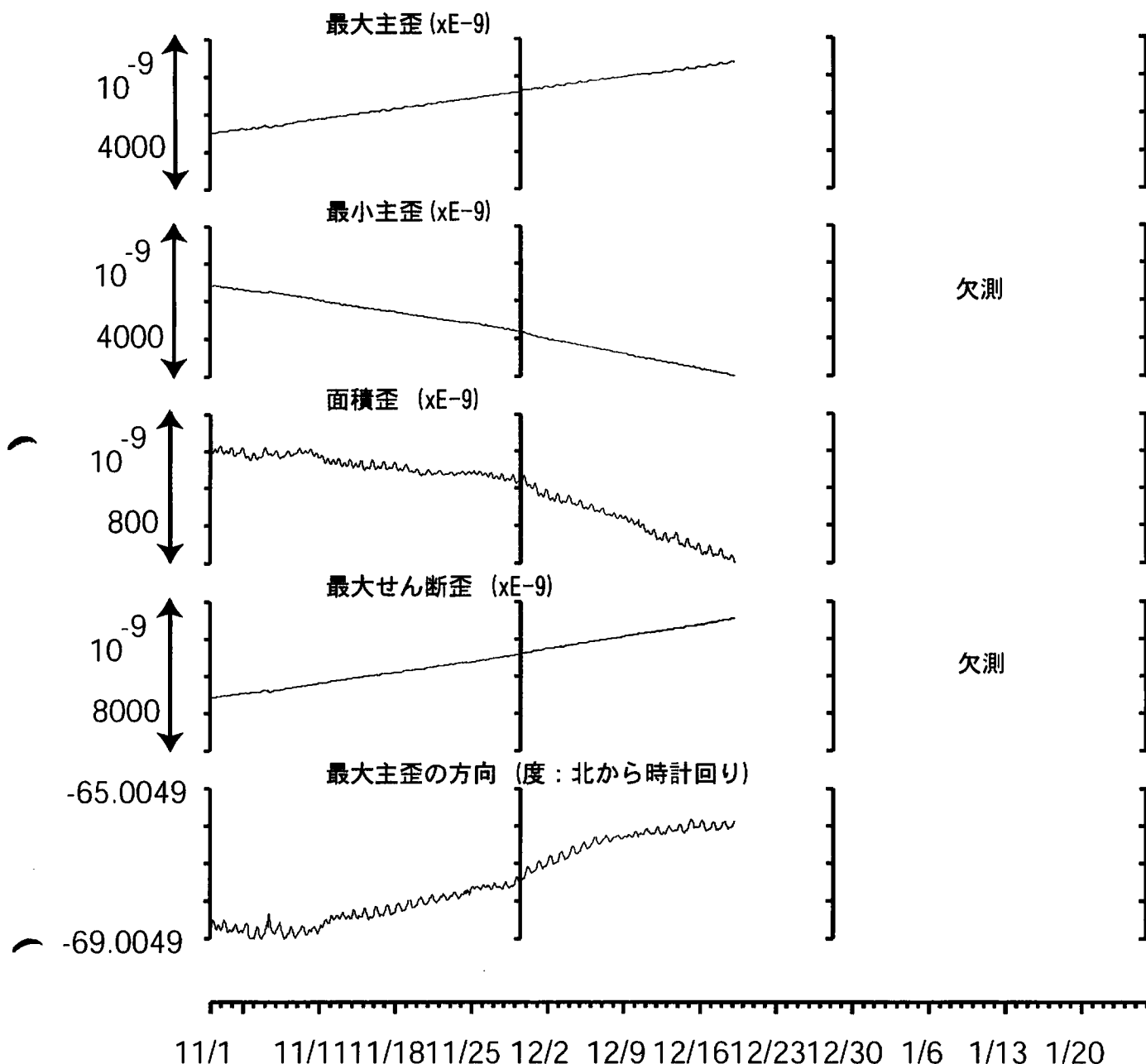
11/1 11/11 11/18 11/25 12/2 12/9 12/16 12/23 12/30 1/6 1/13 1/20

コメント：豊橋1の歪N222はスケールパ-のため欠測。
1月23日に手動でDCシフトし、調整済み。



豊橋1:主歪解析

(2001/11/01 00:00 - 2002/01/26 00:00)

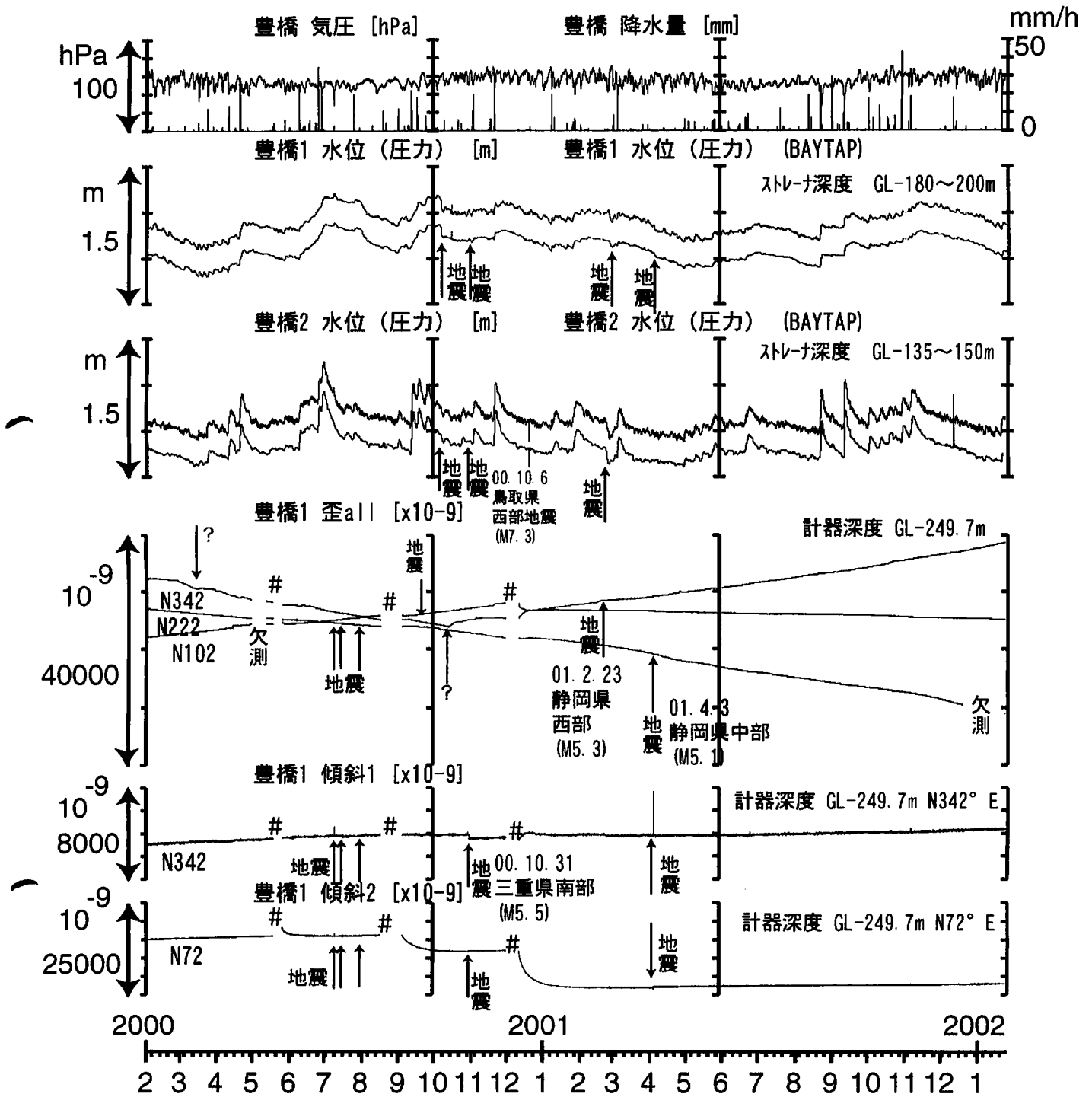


コメント：豊橋1のN222は12/19からスケールオーバーのため欠測。
主歪解析は行わず。



東海地域西部（豊橋）長期（時間値）

(2000/02/01 00:00 - 2002/01/26 00:00)

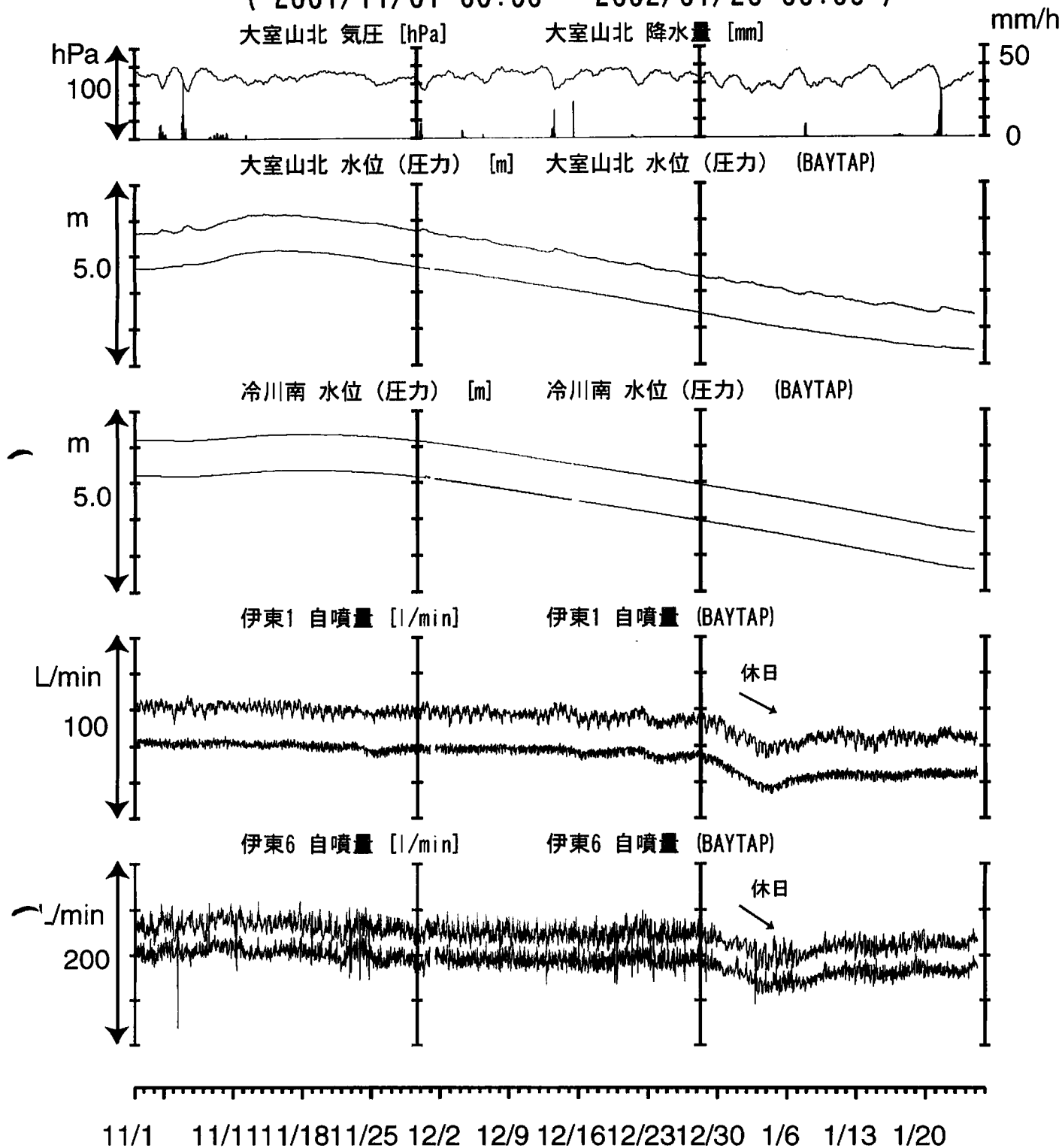


コメント：特記事項なし。
 #バッテリー消耗。
 ?原因不明。



伊豆半島東部:地下水位・自噴量 中期 (時間値)

(2001/11/01 00:00 - 2002/01/26 00:00)

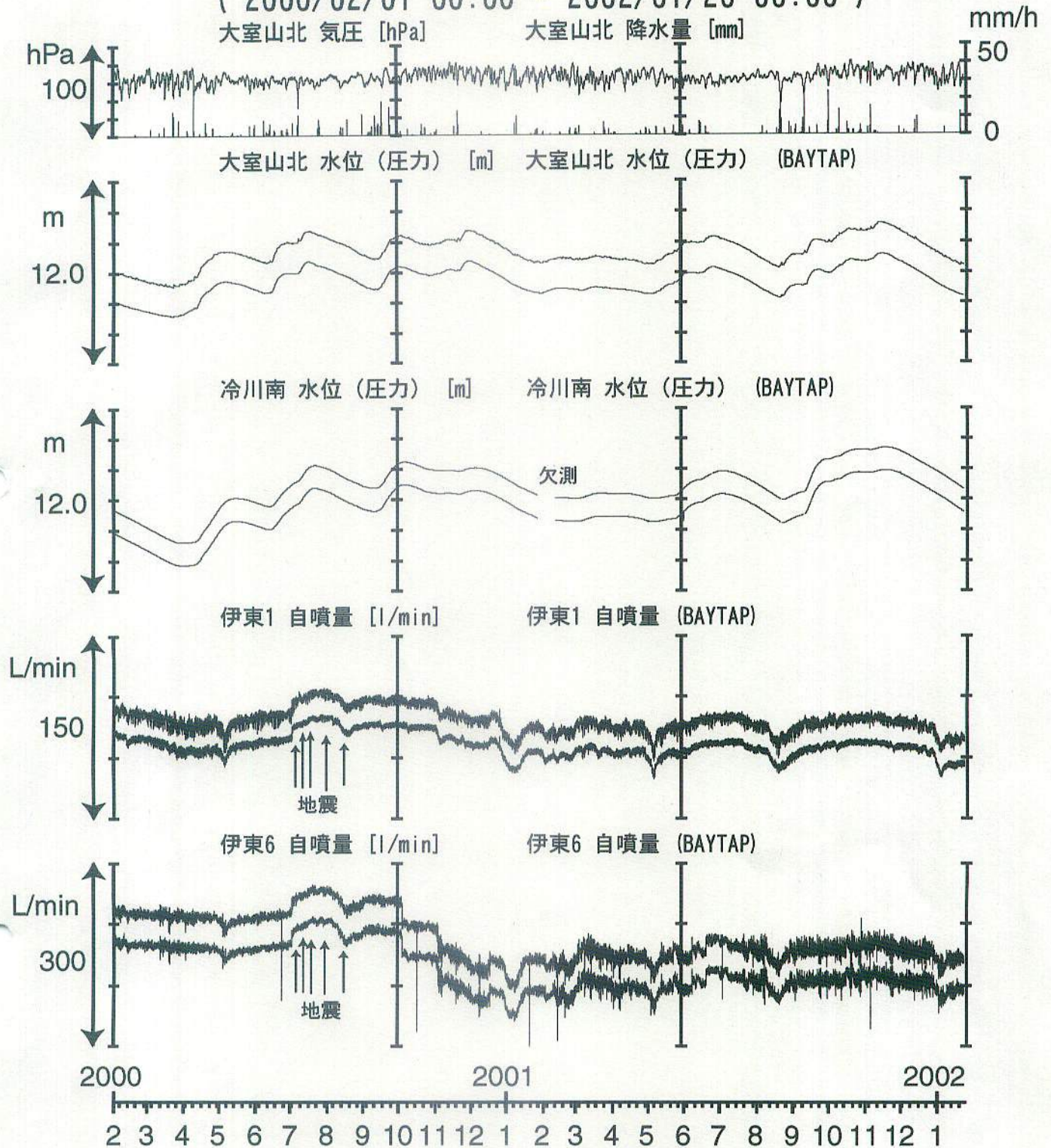


コメント：伊東は、休日・年末年始に温泉使用量が増加するため、自噴量が減少する。
伊東6のばらつきは測器の配管の問題によると思われる。



伊豆半島東部 地下水位・自噴量 長期 (時間値)

(2000/02/01 00:00 - 2002/01/26 00:00)



コメント：伊東1，伊東6では2000年6月末からの新島・神津島の地震活動に対応した自噴量の増加が見られたが，8月始めに減少し8月中旬に収まった。伊東6のばらつきは測器の配管の問題によると思われる。

